



# 断絶を洗い流そう

60人が鈍川温泉へ

## 南国市に断絶なし

### ユニークな社会教育の場

時代が進むにつれ、ますます多様化する人間関係、個々の人間性、人格などは、日本の社会に「断絶」という言葉を生みだしました。  
三代青年のバスは、明治、大正、昭和の三代青年が大風呂でお互いの背中を流しあい、裸と裸のふれあいをするなかで、三代のそれぞれのよさを学び、より密接な人間関係をつくりあげようという行なわれたものです。  
広報委員会は一月五日、その催しに参加された一部の人たちから感想を聞いてみました。

#### 肌と肌のふれあい

◆ 青年の船、青年のバスというのは、ほかにもありますが、明治、大正、昭和の三代青年のバスは、日本で始めてではないかと思えます。

このバスの意義や実際に参加してみての感想をお聞かせいただきたいと思えます。

▼ 「世代の断絶」ということがいわれますが、どのようにして世代がふれあうか……。その場所をあたえてくれたことに意義があったと思えます。

自分の子供や嫁にも風呂で背中を流してもらったことがないのに見ず知らずの青年とお互いに話し合い、しかも肌を流しあったということが意義がありましたね。

▼ だれにも見せたことのないもののコンクールをして(笑い)頭は白いけれど、下は黒いのう。(爆笑)

▼ バスの中でも明治の青年は、先を競って自分の意見を堂々と述べ、八十歳、九十歳になっても活発な意見があつて、力強さを感じました。

▼ 昭和の青年に対する認識も新しくしましたね。  
自分たちが心配して、ヤイヤイいわなくても大丈夫だ、という印

◆ 正月早々、ほかの市町村にない、めずらしい座談会のできることをうれしく思います。広報委員会で喜んで年の始めにとりあげさせてもらいました。こうしたユニークな催しものできた発想や目的などについて――。

▼ 市は、おとしよりが多く、このおとしよりをいたわることが、市の発展の基礎である。ぜひ、おとしよりの交流を……。と、青年から話がありました。年度の途中で経費のこともありましたが、青年の熱意と市長の決断で決まったわけです。

▼ 目的は、明治、大正、昭和、三代の青年が一堂に会し、かつ、大風呂に入り、お互いの背中を流し合い、裸のふれあいをするなかで

より密接な人間関係をつくろう、と、はじめたものです。

#### 個人負担千五百円

▼ 経費は個人負担、千五百円で三日間。第一日は中央公民館で事前研修。班別交換会、入交好保先生の「坂本竜馬と土佐の青年たち」の講演。第二日は明治三十人、大正十人、昭和二十人の六十人が一台のバスに乗りこんで市役所前を出発。バスの中で研修をしながら愛媛県の鈍川(にぶかわ)温泉に到着。大風呂でお互いの背中を流しあったり、楽しい夕食で懇談。翌三日目は松山市内を観光バスの中で研修しながら帰郷という日程でした。



象をうけました。立派な「あとと」ができました。

▼「そうですね。明るさと自信をもちました。その後、明るい希望にみちた楽しい日々がおくれるようになりました。」

▼「家に帰り子供や嫁につぶさに話をしたところ、それから嫁にいいないこともなくなりました。」

意気盛んな明治青年

◆「世代の断絶」といわれますが、三代青年のバスを通じて、それぞれの世代の長所、短所をつぶさに肌で感じられたことと思いませんか。

断絶とは、どうにもとまらな「い」ものなのか。それともマスコミのつくりだした言葉だといえるでしょうか。

▼断絶とか、考え方がちがうとかいわれますが、明治、大正、昭和の人の考え、人生を歩んでいくための基礎はかわっていないということですね。少しはちがっているところもありますが、人生の先輩が、私たち青年のことを考えてくれていることを感じました。

▼私は、おじいちゃん、おばあちゃんも早くなくなつて、おとしよりの方と接すること

が少なかったのですが、考え方や礼儀など勉強になりました。

▼大正の青年は、中間的な存在で、参加者も十人と少なかったですが、やはり明治の青年は、だてに年をとっていないと感じました。

夕食の懇談会でも、最後まで残っていたのは明治の青年。(爆笑)

意気盛んなところが、みならわなければと思いました。

▼断絶、断絶と人がいうから断絶をしなればならないような錯覚を起しますね。

子供でもそうですが、できん、できんといっていると、なるほど自分ではできないものかと思つて成

績が悪くなります。その点が大事で、南国市には断絶なし」と痛感しました。

▼世代の断絶について、昭和の青年たちも、いい意味でのいい

## 昭和の青年、健在なり

### 青年らしさを育成

いことをいう、また明治、大正の青年もすばりいう、遠慮のないなかで断絶がふつ飛んでしまった。

レジャーは生活の一部

◆「純川温泉ですっかり、世代の断絶」を洗い流してこられたようですが、昭和の青年の青年像をどのように感じていますか。

▼「すばり、昭和の青年、南国市、健在なり」と感じました。

青年のあたたかい気持を明治の青年は非常に感謝をしていました。

▼あまり昭和の青年がよすぎた。よい人ばかりではなかったでしょう。か。(笑い)

▼みんな心の中では、良いものをもっているなあ。だから、寄り合うと本当の自分のものをだしていると感じました。

▼若い者にまかして大丈夫と感じましたよ。いい企画だし、結果的にはものすごくよかったです。

▼どうも最近の青年はいけないという声がありますが、いくらでもアイデアと、はつらつたるエネルギーをもっていますね。引き出せばいくらでも出てくる。

「最近の青年はいけない」と網

をかけたはいけない。青年らしい立派さがあり、自由奔放に育成していきたいものです。

▼今の青年はいかん、ということとでなく、みんなの家庭の中にはそれぞれ青年を育てているので、家庭の断絶をなくすれば、社会の断絶もなくなると思えますね。

◆「みなさんはレジャーやレクリエーションをどのようにうけとめているでしょうか。」

今の青年はレジャーやレクリエーションが生活の一部になっていますが、明治の青年は「あそび」というと罪悪のような感じが、心のどこかにあると思えますが、

▼「こういう時代なので、なんとも思っていないですね。」

一般では、やはり今の若い者はあそびすぎるという考えをもっていますが、よく理解することが大切ですね。

▼断絶の根本はそこで、簡略というところからきていると思えますよ。

勤儉貯蓄、辞書になし?

▼「あそびは、極道、遊び人ということで。日が出て、日が沈むまでは働らなければいけない。勤儉貯蓄ということを知ったが今では辞書にもない。(笑い) 週休二日制もよかましくいわれ

### 話された人たち

(順不同)  
(敬称略)

- ◆明治・山本善道(十市) 川村等(田村) 浜田米治(廿枝) 北村千鶴(立田) 松木伝三(大埔) 田島正実(滝本) 金堂久喜(市長) 利岡富次(教育長)
- ◆大正・池本速水(篠原) 森田多賀恵(滝本) 幾井幸雄(教育研究所)
- ◆昭和・武市憲男(大埔) 神田彰(浜改田) 野村香代(十市) 山崎明美(陣山) 武市忠雄(篠原) 和田義許(市教委)
- ◆広報委員・藤本茂樹、山崎俊雄 浜田弥芳、東村達夫 司会・山本尚一(広報委員長)

### 指名願

三月三十一日まで

- ▼工事・建設省の統一様式、市にも様式があります。……財政課管財係
- ▼物品・市の指定した競争入札(見積) 参加申請書で……会計課用度係

### 青年のバス雑感

松木伝三(大埔)

断絶、何と暗い語感ではあるか。社会いたるところに、この悲劇はあつて、毎日のように新聞記事になっているが、恐らくこれは氷山の一角で、尖鋭化しない小さなトラブルは他にも随分多いことだろう。世代の相違によつて起る問題を、断絶といつてマスコミは必要以上に騒ぎ立てるが、人生の相違、反目は年代を同じうする間でも人それぞれ考え方の違いや、時のハズミによつて起るものだ。まして世代を異にする老人と若者との間ではその要素が余りに多く、戦後二十数年の間にもそれが一層ひどくなった。しかし若者と老人とが同じ考えである筈がなく、また同じであつても異なる。世代の違う者が一緒に住んでいるがために社会がうまくゆかないとしたら大変だ。家庭ではなおさらの事、社会は一歳から百歳までの年齢層で構成されているので、年代間の調整をうまくやつてゆくことが社会をよくする事の第一歩だともいえる。そのためには相互の理解が第一である。これには理解を深

裸で触れ合い三世代の点と点を結び線を成し、更に面を構成し、三世代渾然一体の理想社会を建設しよう、という狙いの三代青年バスの主旨に大賛同し、参加させて貰つた。何かと勉強にもなり、いろいろ感をふかした。初めての試みで大成功だったと思う。純川温泉での三世代背中の流し合いの光景など、正にこの世の極楽、今企画中の圧巻、ヤマ場であつたといえる。これを家庭に持ち帰り社会に広めるなら断絶などありようがない。近頃にはない愉快な研修旅行であつた。

(三十字の長文でしたが、紙面の都合で割愛しました。)

### 拙歌句

小笠原凡翁(三島)

市吏員の憶慮れる見送りを あとに残してバスは出て発つ  
お嬢様住いし跡を忍べども ただ一瞬にバスは過ぎ行く  
純川の温泉宿におちつきて 大築山に紅葉眺むる  
温泉に湯浴(ゆあみ)をすれば若者が 背巾流す此の暖かき  
朝風呂は久しぶりなり湯気の中 見ゆるも味しバスの中に  
薄雲の棚引くはとり鳥影の 恐るる故か一句だになし  
子規堂に我来てみれば排名に 七十年の昔にかえる  
須摩の曲声高らかに歌う諭々 旅にて受くる貨有難き  
恍惚の仲間入りせる我なるに 握手交して笑(え)まい別るる  
旅終て螢の光り歌いつつ

◆最後に三代青年のバスの反省と今後のことについて。

▼肌と肌とのふれあいということで、落着いた温泉を選びました。ほとんど旅館は私たちが自由研修ができました。

▼欲をいえば、もう少し討論できる時間がほしかったですね。二泊三日ぐらいにすれば、ゆつくりやれると思えますよ。

▼こういう会を市当局に組織してもらい、末端へ支部をつくるなどして、まちづくりをしたいと思えますね。

▼こんな催しのあることは、ちつとも知らなかったという人もありましたが、もう少しPRして、広くみんなの人が参加してもらえようにしてほしいですね。

▼このころの社会教育では、生涯教育ということがよかましくわれています。

教育といえは、すぐ学校教育のことを連想しますが、こういう社会教育の学習の場があつたんだなあ。実にすばらしい勉強の場だ。身体をとおして、実践をとおして、理くつぬきの学習の場だ。教育というものをもう一度考えてみなければならぬ。と考えさせられました。しかも、青年の発想で企画が生まれ、行政側がピンツととらえて実践にうつされたことに敬意を表したいと思います。

▼複雑多岐な行政をあずかつていて、その年をふりかえり十大ニュースは何だろうと考えますが、さまざまの問題のなかで、今まで考えていなかったことで、新しく創造した催しであるという点から十大ニュースの一つに特筆すべきです。

経費は四億五千万円の市庁舎建設からみると少ないが(笑い)成果は非常に大きかった。

日本一で、ほかにはないので、来年度には外の子算をしめだしても予算化します。(金買拍手)

◆市長の力強い決意を聞いて、大成功というところですが、この会で学んだものを、家庭に社会に生かしてほしいと思えます。

では、この辺で――。